



わたしたちの予算が「まちづくり」のためにどのように使われたかを報告します。

令和2年度 わたしたちの「越前町」の決算報告

令和2年度

■全会計の決算状況

令和2年度の一般会計、特別会計、事業会計を合わせた歳入総額は25.8億7,987万5千円で、前年度より42億6,080万円の増、歳出総額は25.2億1,061万5千円で、前年度より42億1,892万7千円の増となりました。また、歳入総額から歳出総額を差し引いた収支は、6億6,926万円の黒字となりました。

そのうち、教育や福祉、土木など一般的な行政運営をまかなう一般会計では、歳入が18.4億7,023万7千円で、前年度より41億4,677万7千円の増(29.0%増)、歳出が17.8億1,352万4千円で、前年度より42億1,923万9千円の増(31.0%増)となりました。

(単位:千円)

区分	歳入決算額		歳出決算額		歳入歳出 差引残額 (A)-(B)	
	(A)	対前年度比 (%)	(B)	対前年度比 (%)		
一般会計	18,470,237	29.0	17,813,524	31.0	656,713	
特別会計	国民健康保険事業	2,283,766	▲4.1	2,247,670	▲5.5	36,096
	介護保険事業	2,395,748	▲1.5	2,332,703	▲2.4	63,045
	後期高齢者医療事業	288,420	9.1	286,591	9.0	1,829
	簡易水道事業	528,832	17.4	524,635	18.2	4,197
	公共下水道事業	740,932	2.6	730,857	3.2	10,075
	集落排水事業	298,362	2.8	293,349	3.2	5,013
	温泉事業	92,127	321.1	91,324	339.4	803
	農林漁業体験実習館事業	21,619	▲22.8	21,619	▲22.8	0
	土地地区画整理事業	47,298	76.3	47,298	76.3	0
事業会計	水道事業	269,475	▲1.2	255,244	▲3.4	14,231
	国民健康保険病院事業	303,802	▲0.2	297,295	▲1.7	6,507
	資本的収支	88,672	▲4.6	150,347	▲5.4	▲61,675
	資本的収支	50,585	▲17.4	118,159	▲7.3	▲67,574
合計	25,879,875	19.4	25,210,615	20.1	669,260	

※決算額の千円未満を四捨五入しています。

■一般会計・歳入決算の状況

一般会計の歳入総額は、前年度と比べて41億4,677万7千円増加しました。

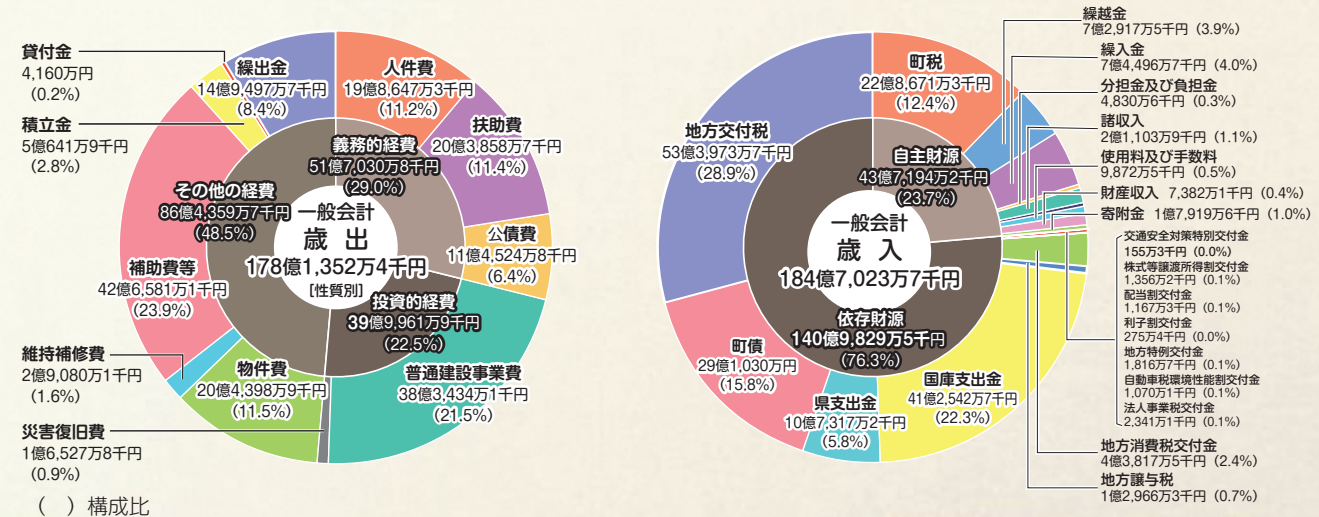
増加した主な要因として、新型コロナウイルス感染症対策緊急経済対策として特別定額給付金支給事業の実施(一人当たり10万円の給付事業)などにより国庫支出金が29億4,331万4千円増加(249.0%増)したことや、役場本庁舎建設の実施に伴う起債の借入れ増により、町債が12億8,700万円増加(71.0%増)したことなどが主な要因です。

また、財政調整基金などの基金繰入金金が1億9,084万1千円増加(34.1%増)したことも要因です。

■一般会計・歳出決算の状況

一般会計の歳出総額は、前年度と比べて42億1,923万9千円増加しました。

増加した主な要因として、特別定額給付金支給事業の実施により、補助費等が20億4,491万7千円増加(92.1%増)したことや、役場本庁舎建設やケーブルテレビ施設更新事業(織田地区ケーブルテレビ施設更新)の実施に伴い、普通建設事業費が14億3,271万7千円増加(59.7%増)、小中学校GIGAスクール構想環境整備事業(タブレット端末購入等)により、物件費が3億6,492万7千円増加(21.7%増)したことが要因です。



快適で安全に住めるまちづくり

●人に優しい道路網の整備

安全・安心に通行できる道路を確保するため、国の補助金を活用しながら、町道の改良や維持補修、消雪設備の整備などを行いました。

5億6,949万5千円

●情報通信基盤の整備

町内で光化されていない織田地区のケーブル線を光インターネットサービスや超高細度映像(4K・8K)に対応する施設へ再整備し、地域間の情報通信格差を解消しました。

4億2,827万1千円

誰もが健康で暮らしやすさを実感できるまちづくり

●健康づくりの推進

各種予防接種を実施し、乳幼児の感染症予防や高齢者の肺炎予防を図るとともに、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備え、高齢者インフルエンザ予防接種の費用負担を行いました。また、風しん予防接種の機会がなかった人に予防接種を行いました。

5,494万円

人が輝き豊かな心が満ちあふれるまちづくり

●学校教育施設の整備・充実

小中学校の校内通信ネットワーク環境や児童・生徒一人に1台のタブレット端末などを整備し、教員の指導や児童・生徒の学びの支援を図りました。

3億3,064万2千円



▲タブレット端末を使い授業を受ける児童・生徒

人と仕事の活力みなぎるまちづくり

●漁村の活性化

漁業経営体の経営基盤を強化し、漁獲量の増加に向け小型底曳網船(新造船)の導入に対して支援すること、漁業の持続的安定的な漁獲量の確保を図りました。

4,999万9千円



▲導入された小型底曳網船

●子育て世帯への支援

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける子育て世帯の生活支援として、中学3年生までの児童を養育する世帯に対し、給付金を支給しました。

3,792万9千円

●介護従事者、保育従事者、児童クラブ従事者への支援

新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、介護サービス事業所や保育所、児童クラブで従事する職員に対して応援金を給付しました。

1億8,092万5千円

●飲食業、宿泊業、小売業への支援

新型コロナウイルス感染症の影響により、売上げが減少した飲食業、宿泊業、小売業を営む事業者を支援し、町内における消費喚起を図りました。また、県下8町で連携し、経済振興支援、観光資源の再発見を促進しました。

1億1,964万3千円

ふるさとの個性を活かし交流を育むまちづくり

●特産品 越前ブランドの魅力向上

「越前焼」など丹南地区の伝統工芸が連携し、新たにバーチャル工房トラベル(外国人を対象としたオンライン工房見学)の実施など、情報発信を積極的に行い、伝統産業の活性化を図りました。

605万9千円

●行政拠点施設の整備

防災拠点機能を備え、町民の安全と安心を守り、町民が利用しやすい越前町役場新庁舎建設工事を行いました。

19億7,783万7千円



▲完成した役場新庁舎

●住民への支援

新型コロナウイルス感染症緊急



越前かに太郎の家計簿

前ページの「令和2年度一般会計決算の歳入額と歳出額（性質別）」を1,000分の1にし、「越前かに太郎」の1年間の家計に置き換えてみました。

収入

①給料	229万円
・町税（町民税や固定資産税など、みなさんから納められた税金）	
②財産・臨時収入	61万円
・使用料（町の施設や設備の利用料など）	
・負担金（町の事業で利便を受ける人が負担するお金）	
・諸収入（貸付金の元利収入や団体・個人からの負担金など）	
・財産収入（町の土地などの売却代金）	
・寄附金（個人や団体から寄附されるお金）	
③貯金の取崩し	74万円
・繰入金（町が積み立てているお金（基金）の取崩しや特別会計・事業会計から受け入れるお金）	
④前年度の残金	73万円
・繰越金（前年度決算からの繰越金）	
小計(A) ※自主財源	437万円
⑤支援金	1,119万円
・地方交付税（国から交付されるお金）	
・国・県からの補助金（法律などに基づく交付金や事業の実施に対する補助金）	
⑥借入れ	291万円
・町債（銀行などからの借金）	
小計(B) ※依存財源	1,410万円
収入合計(A)+(B)	1,847万円

支出

①生活費	830万円
・人件費（各種委員の報酬や職員給与に係るお金）	
・物件費（施設の管理費や事業の委託料など）	
・補助費等（団体などに対する負担金や補助金）	
②医療費	204万円
・扶助費（子どもや高齢者、障がい者の福祉などに係るお金）	
③借金の返済金	114万円
・公債費（町債の元金及び利子の支払いに係るお金）	
④家の増築や車の購入費	400万円
・普通建設事業費（町の施設や道路などの新・増築や大規模な設備の購入に係るお金）	
・災害復旧費	
⑤修繕費	29万円
・維持補修費（町の施設の修繕に係るお金）	
⑥子どもへの仕送り	149万円
・繰出金（特別会計や事業会計に支出されるお金）	
⑦貯金	51万円
・積立金（基金に積み立てるお金）	
⑧知人への貸付金	4万円
・貸付金（団体などに対し貸し付けるお金）	
支出合計	1,781万円

町債(借金)と基金(貯金)の年度末現在の推移

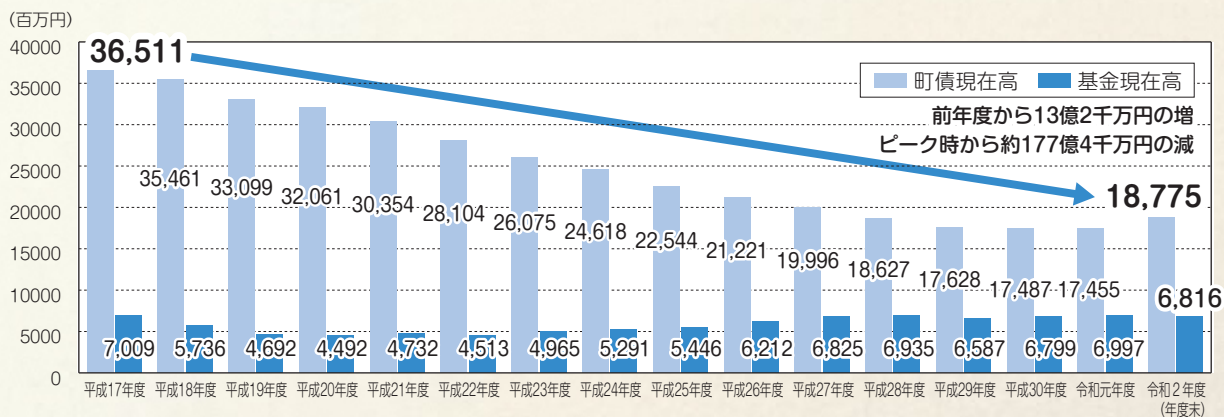
令和2年度末の一般会計、特別会計、事業会計を合わせた町債(借金)の現在高は18億7,467万9千円で前年度より13億1,916万3千円の増加、基金(貯金)の現在高は68億1,577万円で前年度より1億8,084万2千円の減少となりました。

町債の発行(借金)は、元利償還金(返済金)を上回らないよう、計画的に事業を実施するなど、町債現在高を着実に減少させ、財政の健全化を進めています。

また、基金は、地方財政法に基づき、前年度の剰余金の半分を積み立てることにより、事業の実施や収入の減少など、将来的な財政負担に備えています。

町民1人あたり現在高
町債(借金) 約90万円
基金(貯金) 約33万円

※それぞれの現在高を、令和2年度末の越前町の住民基本台帳人口20,862人で割って算出しています。



わたしたちのまちの財政状況

健全化判断比率と資金不足比率は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律により、各年度決算に基づき算定されます。この比率には、法律で定められた早期健全化基準や経営健全化基準があります。比率のいずれかが基準を超えた場合は、財政健全化計画や経営健全化計画を策定し、財政の早期健全化や公営企業の経営の健全化を図らなければなりません。

越前町の令和2年度決算ではすべての比率が基準を下回り、財政は「健全」となっています。

令和2年度決算の越前町の財政指標

財政指標区分	越前町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	黒字のため健全	13.84%	20.0%
連結実質赤字比率	黒字のため健全	18.84%	30.0%
資金不足比率	全会計で資金不足無し	20.0%	—
実質公債費比率	9.4%	25.0%	35.0%
将来負担比率	25.9%	350.0%	—

令和2年度決算の健全化判断比率と資金不足比率は「健全」

■実質公債費比率は9.4%

「実質公債費比率」とは、町債(借金)の返済額などが標準財政規模(※)に占める割合です。町債の返済額などには、一般会計だけでなく、上下水道・病院の公営企業会計、ごみ・し尿処理や消防の業務を行う一部事務組合に対する町からの負担金のうち、団体の借金の返済に充てられたとみられる額も含まれています。この比率が高いほど、町に対する借金に關係する負担が大きくなります。

地方消費税交付金や法人事業税交付金の増による標準税収入額等の増、普通交付税の増、公営企業会計における元利償還金の減により、単年度実質公債費比率は減少しました。

一方で、比較的数字の低かった平成29年度の単年度実質公債費比率が算定対象から外れたことから、実質公債費比率は、令和2年度決算では9.4%となり(3か年平均)、前年度と比べ0.3ポイント悪化しました。

(※)町税や普通交付税、各種譲与税・交付金など、使途が限定されない通常の年間収入の合計額

■将来負担比率は25.9%

「将来負担比率」とは、町トータル(借金)の将来負担額と呼ぶ、標準財政規模に占める割合です。将来負担額は、次のものなどの合計です。

- ・町債(借金)の残高
- ・上下水道・病院の公営企業会計の借金の返済に充てる一般会計などの負担見込額
- ・職員の退職手当支給予定額

一方、基金(貯金)の残高など(充当可能財源と呼ぶ)があれば、将来負担額から控除することになります。

この比率が高いほど、現在背負っている借金などが将来財政を圧迫する可能性が高いこととなります。

町では、町債の残高の縮減や財政調整基金への積立てにより将来的な負担の軽減を図ってきました。

この結果、将来負担比率は、令和2年度決算では25.9%となり、最も比率の悪かった平成19年度と比べると125.5ポイント改善しました。しかし、前年度と比べると、本庁舎整備事業やケーブルテレビ施設改修事業など大型事業の実施より起債残高が増加したため、9.7ポイント悪化しました。

問合せ先 企画財政課 ☎34-8702

令和3年度9月補正予算の概要

予算規模

	補正前予算額	補正額	補正後予算額
一般会計	124億9,050万円	2億579万9千円	126億9,629万9千円
特別会計	64億1,797万1千円	5,574万2千円	64億7,371万3千円
事業会計	10億1,019万4千円	780万円	10億1,799万4千円
合計	199億1,866万5千円	2億6,934万1千円	201億8,800万6千円

【主な補正内容】

令和4年4月からのデマンドタクシー運行開始に向けて、運行車両や受付業務用備品購入などの準備費用を計上

(872万6千円)

■マイナポイント事業に代わる町独自の事業として、令和3年5月から令和4年2月までにマイナンバーカードの交付を受けた町民に商品券を交付するための費用を計上(750万円)

9月補正予算の補正額は、次のとおりです。

(※補正額は6月補正後に専決した予算も含まれています。)